

## 1 学校教育目標

人間尊重の精神を基盤としながら、生涯学習の視点に立って、児童の個性を生かし可能性を引き出す教育を推進し、夢や希望をもって持続可能な社会づくりを担い得る、知・徳・体・情操の調和のとれた豊かな人間性を持ち、自ら学び、考え、行動する児童の育成を目指す。

かしこく やさしく がんばる 千寿の子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	◎「千寿プライド」一人一人がキラリと輝く学校 ・基礎学力が定着し、豊かな心が育ち、いじめを許さない学校 ・全教職員が創意を發揮し、熱意と誠意をもって、協働している学校 ・家庭、地域、異校種、関係機関等と連携し、安全・安心で開かれた学校
○児童・生徒像	・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」が育まれ、将来の社会を生き抜く力の基礎が育っている児童 ・規範意識があり、協働の精神を持ち、他人を思いやることができる児童 ・大きな夢を持ち、自分の課題を最後までやり遂げる児童
○教師像	・安全、安心に配慮し、「子どもファースト」で児童一人一人を大切にされた教育を推進する教師 ・子どもにとって、楽しい授業、よく分かる授業、自ら学びたくなる授業を工夫できる教師 ・保護者や地域の人々と連携し、児童や保護者、地域から信頼される教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

依然として、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受ける中であったが、「創立20+1周年」を「新たな時代の出発点」と位置付け、①GIGAスクール構想（区によるICT環境の整備）、②SDGs（持続可能な開発目標）、③新しい生活様式（新型コロナウイルス対策）を踏まえた取組を重視しなから、「子どもファースト」の教育活動の推進に努めた。「学力向上アクションプラン」については、区調査（2～6年）では、国語の通過率89.0%、算数の通過率90.2%と、目標とした水準を上回り、また、国調査（6年）では、国語の平均正答率で5P、算数の平均正答率で2P、理科で9P、都平均を上回った。また、単元テストの結果からも、知識及び技能の確実な定着と、思考力・表現力・判断力等、そして、学びに向かう力・人間性等の育成を目指した取組の成果を見て取ることができた。一方で、区調査の国語では、応用問題の正答率の4層分布で、第2、3学年ではA層（最上位層）と他の児童、第5、6学年ではD層（最下位層）と他の児童との間に開きがあり、学年が上がるほど下位層への手厚い指導を徹底していくことが必要であることが明らかになった。算数でも、応用問題の正答率の4層分布では、第2、3学年ではA層（最上位層）と他の児童、第5、6学年ではD層（最下位層）と他の児童との間に開きがあり、やはり、学年が上がるほど下位層への手厚い指導を徹底していくことが必要であることが明らかになった。次年度は、学びの個別最適化をさらに徹底していく。「豊かな心の育成」については、新型コロナウイルスの一定の収束と再拡大が繰り返される中であったが、保護者や地域の皆様のご理解とご協力のもと、組織的・計画的な取組を推進することができた。さらに一人一人の児童理解をより多面的かつ深く行っていくよう、努めていく。「体力・運動能力の向上」については、コロナの影響による二極化が顕著であるが、児童に体を動かすことの楽しさ、大切さを実感させ、スポーツ志向を高めることを第一に考えながら、改善に努めていく。「健康の増進」については、よりよい生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協働を推進していきたい。特に、早寝・早起き・歯みがきについては、家庭との連携のもと、習慣化を徹底していきたい。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン（3つの資質・能力の育成）	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成		○	○	○	○
3	体力・運動能力の向上と健康の増進		○	◎	◎	○

## 5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン（3つの資質・能力の育成）							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
学習の個別最適化と協働性の向上		○区調査の目標通過率 国、算ともに86%以上		○区調査の目標通過率 国語88.0%、算数87.3%		ともに目標を達成することができた。 ・学習の定着状況と具体的な取組は、6(1)を参照。		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
①新規	「思考・判 ベース」の 授業づくり	全学年 全教科・ 領域	各授業 補充的 な取組	言語活動の工夫・改善、I C Tの積極的な活用、主体 的・対話的な学習・活用型 学習の充実、「問い」の工 夫、校内研究(算数)の教 育活動全体へのフィード バック。	○6年国調査 (4月)の 平均正答率 ○単元テスト の「思考 力・判断 力・表現力」 の観点	○国・算ともに 都平均を上 回る ○国・社・算・ 理いずれも 平均 82%以上	○国語都平均+3P 算数都平均-1P ○国語89% 社会87% 算数79% 理科79% (1月上旬現在)	教育活動全般で 「課題提示」「問い返 し・切り返し」「学び 合い」を重視した授 業づくりに努めた が、数値からは教科 の格差が明確となっ た。	○
2 継続・ 発展	基礎的な 知識・技能 の確実な 定着	第1、2 学年： 国・算、 第3～5 学年： 国・社・ 算・理	各授業 補充的 な取組	S P表分析の活用(特段の 支援が必要な児童と定着 の難しい内容の明確化)、 授業及び補充的な取組に おける指導の個別化・多層 化の推進、A Iドリルの効 果的な活用	○単元テスト の平均達成 率80%以上 の児童の割 合 ○区調査問題 による定着 度確認(2 月)の通過 率 ○A Iドリル の活用状況	○国・社・算・ 理のいずれ も82%以上 ○国・算ともに 82%以上 ○全ての児童 が月平均で 250問A Iド リルを活用	○国語85% 社会85% 算数83% 理科84% (1月上旬現在) ○国語80.1% 算数83.2% ○目標を達成した児 童の割合96% (月あたりの平均 活用数287問) (12月末現在)	学校全体での継続 的、組織的・計画的 な実施が、確かな学 力の定着につながっ ていると考える。A Iドリルについては、「指導の個別化」 と「学習の個性化」 を推進するツールと してより効果的な利 活用に努めていき たい。	◎
3 継続・ 発展	家庭学習 の充実	宿題は全 学年 自学自習 は第2学 年以上	家庭学 習	○全学級での提出状況の 記録 ○学力向上委員会による 取組状況の確認 ○担当者によるA Iドリ ルの活用状況の確認	○宿題提出率 ○自学自習の 定着率 ○家庭でのA Iドリルの 活用頻度	○宿題提出率 95% ○自学自習の 定着率95% ○全ての児童 が週1回以 上のペース でA Iドリ ルを家庭で 活用	○宿題95% ○自学自習93% (1月上旬現在) ○全ての児童が週1 回以上のペースで 活用	A Iドリルも積極 的に活用しながら、 授業と家庭での学習 を効果的に結び付 け、3つの資質・能 力の育成に努めた。 自主性と習慣化の向 上が課題である。	◎

4 継続・発展	本に親しむ機会の充実	全学年 全教科・領域 業前・業間・放課後・家庭	原則毎日	図書館行事の計画的な実施（読書月間・特別貸出・読書感想文コンクール・調べる学習コンクール・図書館ボランティアや図書館支援員との連携）。家庭読書の推進・ノートタブレット休み時間の設定。蔵書の充実。	○読書量の目標達成者 ○本を読むことが楽しいと感じている児童	○第1学年60冊、第2学年70冊、第3学年80冊、第4学年3000ページ、第5、6年4000ページの達成者：86% ○本を読むことが楽しいと感じている児童85%	○読書量の目標達成者86%（1月上旬時点） ○本を読むことが楽しいと感じている児童 第1回89% 第2回86%	学校においても家庭においても、児童の読書に関わる機会が大きく減ってきているが、今後も読書の意義を伝えながら、取組の充実に努めていく。	◎
5 継続・発展	中学校につながる確かな英語力の育成	第5、6学年 英語	各授業補足的な取組	教科英語の趣旨を踏まえ、中学校に向けて4技能をバランスよく確実に育む授業と個別支援の充実を図る。	○チェックテスト（9月、2月） ○区調査問題を活用した定着度確認（2月）6年	○2回とも達成率80%以上の児童が95% ○通過率90%	○第1回（10月）91% 第2回（2月）92% ○通過率79.7%	コロナへ特段の対応もほぼ必要なくなり、児童同士のコミュニケーション場面を増やすことができた。今後も4技能をバランスよく育んでいきたい。	○
6 継続・発展	I C Tの効果的な利活用	全学年 全教科・領域	各授業補足的な取組	足立スタンダードに基づいた問題解決的な授業におけるI C T機器の効果的な利活用。個別指導・補足的学習・家庭学習等でのA Iドリルの計画的活用、協働的な学習場面の充実。	○授業改善に対する児童の評価 ○A Iドリルを週1回ペースで計画的に活用する教員の割合	○「I C Tを使うことで授業が楽しく、わかりやすくなった」と感じている児童95% ○A Iドリルを計画的に活用する教員100%	○「I C Tを使うことで授業が楽しく、わかりやすくなった」と感じている児童 第1回86% 第2回89% ○A Iドリルを計画的に活用する教員100%	活用の機会が増え、質が向上する中で、児童がI C Tのよさに対する認識を深め、主体的に積極的に利活用する姿が日常化してきたことは、大きな収穫である。	○

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成			
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
	全ての児童の明るい学校生活の実現	「学校は楽しい」と感じている児童95%、「子供は、楽しく学校に通っている。」「教員は、子供の困っていることや悩みなどを理解し、誠実に対応している。」への保護者の肯定的な評価95%	「学校は楽しい」第1回93% 第2回93% 「子供は、楽しく学校に通っている。」第1回95%、第2回94% 「教員は、子供の困っていることや悩みなどを理解し、誠実に対応している。」第1回89% 第2回86%	概ね目標とした水準の児童・保護者が学校生活について肯定的に評価していることを成果と受け止める一方で、相談機能のさらなる充実を今後の課題としていきたい。	○

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
実態把握・対応の徹底と児童の自主性・主体性の向上	いじめとして年間 100 件以上の案件を認知 学校生活の改善に係る児童の主体的な取組の機会を年 2 回	「可能な限り児童とともに」の徹底、「いじめアンケート」「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート調査 (WEBQU)」の効果的な活用、児童の自主的・主体的な取組の推進、「いじめ防止・対処授業」の充実。	3月上旬時点でいじめとして 200 件の案件を認知 学校生活の改善に係る児童の主体的な取組の機会を年 2 回以上確保 （「いじめ防止集会」「なかよし宣言」「学校生活改善プロジェクト (仮称)」）	教職員一人一人と組織としてのアンテナを高めることができた。児童の自主的・主体的な取組の機会や内容を、さらに充実させていきたい。	◎
基本的な生活習慣の定着	「教員は、子供にあいさつや、返事をする、マナー、きまりを守る大切さを教えている。」への保護者の肯定的な評価 90%以上	代表委員会を中心とした児童の自主的な取組の充実、保護者・地域との連携。	「教員は、子供にあいさつや、返事をする、マナー、きまりを守る大切さを教えている。」への保護者の肯定的な評価 第 1 回 89%、第 2 回 89%	概ね目標とした水準を達成できたが、児童一人一人の意識を高め、定着の質を高めていくことが課題である。	○

**重点的な取組事項－3** 体力・運動能力の向上と健康の増進

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
習慣の定着と主体性の向上	体力テストで都平均以上の種目 60%、総合評価で AB 評価 30%以上、DE 評価 35%以下	体力テストで都平均以上の種目 29.2%、 総合評価で AB 評価 25.4%、DE 評価 38.6%	全体的な低下傾向と二極化傾向、種目による得意・不得意が顕著である。	△

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
多様な運動機会の場と内容の充実	「運動が好き・楽しい」と感じている児童が 95%以上	「体力向上推進プラン」に基づく継続的な取組と情報提供の徹底、「動きの洗練性を高める授業」「協力・協働の意義や重要性を実感できる授業」の工夫。	「運動が好き・楽しい」と感じている児童第 1 回 90%、 第 2 回 89%	運動機会のさらなる確保と質の向上を学校の重点課題として、児童一人一人の「スポーツ志向」を確実に高めていきたい。	△
健康な生活習慣の確立	早寝・早起き・朝ごはん・歯みがき・運動習慣の定着状況が 80%以上、むし歯の保有者が 10 月の段階で 7%以内・2 月の段階で 4%以内、1 月測定時の肥満度 20 以上児童を 7%以下	生活実態調査の実施（年間 2 回）、養護教諭・栄養職員の専門性を生かした指導の実施、家庭・関係機関と連携しての「むし歯ゼロ」の推進。	早寝 第 1 回 95%、第 2 回 95% 早起き 第 1 回 96%、第 2 回 95% 朝ごはん 第 1 回 98%、第 2 回 98% 歯みがき 朝 第 1 回 82%、第 2 回 80% 夜 第 1 回 99%、第 2 回 99% 運動習慣第 1 回 86%、第 2 回 87% むし歯の保有者 10 月 6.3%、2 月 3.0% 1 月測定時の 肥満度 20 以上の児童 5.7%	早寝・早起き・歯みがきについては、家庭との連携のもと、習慣化を徹底していきたい。むし歯の保有者は、10 月時点では目標を達成。肥満度についても目標を達成することができた。	◎

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

「おだやかな光と さわやかな風の中で・・・」を基本理念に児童との適度な距離感と「子どもファースト」のアプローチを意識しながら、①ICTの活用を通して「指導の個別化」と「学習の個性化」を推進、②「質」と「実」を意識したSDGsに係る取組、③安全・安心に配慮しながら「コロナ・ブランク」を解消の3点を柱に教育活動の充実・改善に努めることができた。

#### 【「学力向上アクションプラン（3つの資質・能力の育成）」について】

区調査（2～6年）では国語の通過率88.0%、算数の通過率87.3%と、目標とした水準を達成することができた。国調査（6年）の平均正答率の対都平均は、国語が+3P、算数-1Pという結果であった。また、単元テストの結果からも、知識及び技能の確実な定着と、思考力・表現力・判断力等、そして、学びに向かう力・人間性等の育成を目指した取組の成果を見て取ることができた。一方で、区調査の結果より、学校として以下のような課題を見出し、改善に取り組んだ。

<課題>

国語では他の項目に比べて「言語・情報・言語文化」「話すこと・聞くこと」の結果が低かった。既習漢字の活用や語彙の拡張について指導の充実を図る必要がある。算数では、どの学年も通過率が前年度を下回った。特に、高学年の減少率が大きい。学力差の広がりをもく個別最適な学びの充実を通して改善を図っていく必要がある。

<対策>

- 各教科でAIドリルやドリル教材を活用し、スモールステップで反復学習を徹底するとともに、初期の段階、小さな段階でのつまずきの解消を図る。
- 一人一台のタブレットを使用し、「調べる」「まとめる」「発表する」などの学習を積極的に取り入れる。また、ICTの活用力向上を、確実に学習意欲の喚起につなげる。
- 「問い」を工夫した主体的・対話的な学習や活用型学習の充実を図り、「思考力・判断力・表現力」を育てる。
- 学年に応じて100～200文字の作文指導を毎月行い、ポイントを明確化して書く力を育てる。
- AIドリルも活用しながら家庭学習を充実するとともに、その提出・チェックを徹底する。

<結果> 2月の区調査問題を活用した定着度確認では通過率が国語80.1%、算数83.2%と、目標とした水準(通過率82%)を概ね達成することができた。

#### 【「豊かな心の育成」「体力・運動能力の向上」「健康の増進」について】

「豊かな心の育成」については、保護者や地域の皆様のご理解とご協力のもと、組織的・計画的な取組を推進することができたが、相談機能や情報共有の一層の充実をめざしていきたい。「体力・運動能力の向上」については、全体的な低下傾向と二極化傾向が顕著であり、運動機会のさらなる確保と質の向上を学校の重点課題として児童一人一人の「スポーツ志向」を確実に高めていきたい。「健康の増進」については、よりよい生活習慣の確立、さらにはその継続に向けて家庭との連携・協働をさらに強化していきたい。特に、朝晩の歯みがき習慣と運動習慣の確立に努めたい。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

本年度も本校の教育活動並びに学校運営にご理解とご協力をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。次年度の第1学年は予定児童数135名の4学級編制です。これは本年度の第6学年の児童数・学級数と同数です。このため、全校の児童数・学級数も885名前後・27学級と、本年度と同規模です。人数の多いことが学校の活気を高めていることは間違いありませんが、それは必然、学校内外での生活指導案件の多さにも繋がっています。保護者・地域の皆様のご協力のもと、未然防止と確実な対応に努めていきたいと思っております。また、例えば、運動会については、全校一堂に会しての開催やリレー等の特別種目の復活などのご意見もいただいているところですが、大規模校ゆえに、分散型での実施・種目の厳選・ICT等を活用した公開等を継続せざるを得ない状況であることを、何とぞご理解ください。次年度も教職員一致協力体制で「千寿プライド」の可視化を努めてまいりますので、宜しくお願いいたします。

### (3) その他（学校教育活動全般について）

次年度は早いもので現行学習指導要領の全面実施から5年目となったが、改めて「育成を目指す資質・能力の明確化」と「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進」という基本方針のもと、教育活動の充実をめざしていきたい。特に、ICTを「指導の個別化」や「学習の個性化」の推進と校務の改善のツールとして、学校全体により確実に敷衍・浸透させていきたい。